



ウィークリー・ニュースレター  
2021年3月5日～3月11日



昨日、私は思いがけない事態に遭遇しました。妻のミリアムとヤツファに出かけた帰り道、後ろからライトとサイレンが聞こえてきたのです。私も他の車も高速道路の路肩に寄せると、パトカーが1台、また1台、さらにもう1台、屋根に青いライトをつけた黒いセダンやSUV、ライトバーをつけた白いトラックやバンなどが次々と通り過ぎて行き、すぐに何かが起こっている事を悟りました。ベンジャミン・ネタニヤフ首相の車列に追い越されたのです。通りすぎる車の窓越しに、「ビビ」（ネタニヤフ首相の愛称）の姿を見ようと、皆がそれぞれの車から目を向けていました。

今、国民の口からネタニヤフ首相の名前が出ています。ご存知のように、私たちはたった2年のうちに4回目の選挙をしています。ネタニヤフ首相は、クネセットでの過半数獲得を目指して、様々な選挙イベントに参加しています。そして昨日、ネタニヤフ首相がアラブ首長国連邦への訪問に向けてスケジュールを調整しているという情報が国内を駆け巡りました。つい最近までは、このような訪問は前代未聞でした。

しかし、話はさらに驚くべきものにも変わるかもしれません。噂によると、首相はこの旅の途中で、サウジアラビアのムハンマド・ビン・サルマン皇太子と会い、イランに対する防衛同盟について話し合うというのです。この会談は、UAEで行われるかもしれないし、サウジアラビア国内で行われるかもしれません。イスラエルの首相がサウジアラビアの王族と手を組む...ほとんどの人は、このような関係を目にする前に、豚が飛ぶところ（コーシャでもハラールでもないような行為）を見ると思っていました。なぜなら、イランはアメリカを軽蔑する以上に、イスラエルとサウジアラビアを憎んでいるからです。



## ウィークリー・ニュースレター

2021年3月5日～3月11日

Update: 中東の情勢はめまぐるしく変わります。このニュースレターを発行する数時間前に、首相の出張が延期されました。イスラエルやアラブ首長国連邦とは関係なく、ヨルダンが、イスラエルと湾岸諸国の間に位置するヨルダン領空の飛行を許可しなかったのです。ヨルダンがようやく飛行許可を出した時にはすでに遅く、ネタニヤフ首相と首長国のシェイク・ムハンマド・ビン・ザイド氏は後日訪問することで合意したのです。これは、ヨルダンのフセイン・ビン・アブドゥラ皇太子によるエルサレムのアル・アクサ・モスクへの訪問が、警備体制をめぐる意見の相違があったためにキャンセルされたことへの報復ではないかと推測されています(※1)。

願わくば、双方が迅速に予定を組み直すでしょう。繰り返しますが、中東情勢の移り変わりは非常に速く、イスラエル、湾岸諸国、サウジアラビア、イラン、その他すべての関係者の間で、いつ何が起こるかわかりません。今は同盟を結ぶべき時であり、友達を作るべき時でもあります。

### 中東について

この1週間の中東のニュースを振り返ってみると、正直なところ、「同じ話の繰り返し」が多かったように思います。フーシ派は相変わらずサウジアラビアにロケット弾を撃ち続けていますし、イランは相変わらずウランを濃縮しています。アメリカの現政権の対応は相変わらず冴えません。しかし、これらのニュースの中には、どこかで聞いたことがあるような話もあるかもしれませんが、非常に重要な動きもあります。身近なニュースをチェックする前に、まずは中東に火種をもたらす可能性のある事態を紹介しましょう。

20世紀の数十年前、レバノンはその美しさ、スキーリゾートを含む観光、そして政府の安定性から「東洋のスイス」と呼ばれていました。ベイルートは、その文化、洗練された豪華さから、「中東のパリ」と呼ばれていました。しかし、1975年に15年に及ぶ内戦が始まり、最終



## ウィークリー・ニュースレター

2021年3月5日～3月11日

的には12万人から20万人以上の命が奪われました。しかし、内戦が終結しても、暴力がなくなることはありませんでした。派閥争いが絶えず、2006年にはイスラエルとの戦争が勃発し、イランが支援するテロ組織ヒズボラが政府に浸透しています。現在、レバノンには国家としてほとんど機能していません。

レバノンの人々はうんざりしています。インフレ率は天井知らずで、レバノン・ポンドはその価値の約85%を失っています。失業率は急上昇し、飢餓は拡大し、人々は銀行預金から締め出されています(※2)。「彼らは私たちの尊厳を奪っているのです。」タウフィック・マレイ氏は言います。「私たちは虫けらではありません... 私が子供にパンを食べさせる余裕があっても、他の人はそうはいきません。この人たちのために、みんなで街に出ようと言っているんです」(※3)それが、怒った市民たちが行なっていることです。デモ参加者は道路を封鎖し、タイヤやゴミ箱を燃やしました。彼らは、無能な政府の指導者と、システムを麻痺させているヒズボラのテロリストにうんざりしているのです。

レバノン軍の司令官であるジョセフ・アウン将軍が、現在の経済状況に対する懸念を口にしたのは珍しいことでした。「軍のメンバーも他の人々と同様に苦しみ、飢えている」と述べました。「私たちは、この状況の危険性と事態の悪化について何度も警告してきました」(※4)レバノン軍の下士官の平均給与は、かつては月700ドル程度でした。それが今では月100ドル程度にまで落ち込んでいます。アウン将軍のこの言葉は、クーデターの舞台となり得るのでしょうか。軍部と政府の間には確かに愛がありません。「彼らは軍や軍人の苦しみを気にしていない」とアウンは訴えています(※5)。

この1週間、中東のあちこちでロケット弾が飛び交っていたようです。3月3日には、イラク西部にあるアイン・アル・アサド空軍基地に13発のロケット弾が命中しました。この基地には、イラクとシリアのISISに対する「Operation Inherent Resolve」の一環として駐留している



## ウィークリー・ニュースレター

2021年3月5日～3月11日

アメリカ軍とイラク軍がいます(※6)。目標まで5マイル(約8km)飛行したロケット弾は、被害をもたらしましたが、死傷者は出ませんでした。しかし、アメリカの民間契約者1名が「心臓発作」の後死亡しました。この攻撃に対して、米国がどのように対応するかは不明です。先週、シリア東部で米軍が過去のロケット攻撃に対抗して行った弱々しい空爆に続いて、賭けに出るのでしょうか？ペンタゴンのジョン・カービー報道官は、「正しい方法で行おう。イラクのパートナーにこれを調べさせ、彼らが何を発見するかを見よう。...そして、もし反応が認められれば、我々は、あれを見逃さないという事が、明確に伝わったという事だろう。しかし、まだそれには至っていない。」(※7)バイデン政権が、「まだそれには至っていない」という曖昧な状態に至るのに、どれだけ多くの情報が必要なのかは不明です。テロリストの民兵は、力に反応するのであって、「手を出してはいけない相手」である事を、明確に示さなければ、軽蔑されるか、単に無視されるだけです。

イランが支援するテロリスト運動フーシ派によるミサイル・ロケット攻撃が続いています。日曜日、フーシ派は、サウジアラビアの石油施設や軍事施設に向けた8発の弾道ミサイルと14機のドローン攻撃の声明を出しました。サウジ側は、被害が出る前にすべての兵器を撃墜したと主張しています(※8)。そして月曜日、フーシ派はイエメンとの国境付近にあるサウジ公営石油会社アラムコ関連のターゲットに向けて、さらにミサイルを発射しました。サウジの対応は迅速で、フーシ派が支配するイエメンの首都サナアに空爆が行われました(※9)。火曜日も攻撃は続き、サウジはイエメンで40回以上の標的を攻撃しました。

励みになるのは、米国がサウジアラビアへの支援を表明したことです。米国大使館は、「民間人や重要なインフラに対するフーシ派の極悪非道な攻撃は、彼らが人命を尊重せず、平和を追求する気がないことを示している。米国は、サウジアラビアとその国民を支持します。サウジアラビアとその安全保障を守るという我々のコミットメントは確固たるものです」とツイートしました。(※10)ホワイトハウスのジェン・サキ報道官は、このコミットメントを確認し、次のように述べています。「我々は、(サウジアラビアが)イエメンやその他の地域からの真の



## ウィークリー・ニュースレター

2021年3月5日～3月11日

安全保障上の脅威に直面していることを理解しています…。我々は、サウジアラビアが自国の領土を脅威から守る能力を向上するための支援方法を検討します」(※11) バイデン政権がこれまでサウジアラビアを冷遇していたことや、最近ではジャーナリストのジャマル・カシヨギ氏の殺害に関する資料を機密扱いにしていることを考えると、「支援の向上」に言葉以上の意味が含まれているかどうか注目されます。

前政権では、軍事や情報の多くの分野において、“事情をよく知り、適切に対応出来る者に任せる”というのが哲学でした。しかし、現政権の目には、それは有効なやり方ではないと映ったようです。彼らにとっては、悪事が行われていないかどうかを確認するための監視が十分ではなかったのです。そこで、バイデン大統領は手綱を締めています。ドローンの攻撃や軍の実力者の襲撃は、必ず大統領の机の上で承認を得るという新しいルールを設けたのです。国防総省のジョン・カービー報道官は、「提案された重要な行動については、大統領が全てを認知している事を確認し、それを国家安全保障会議が再検討する。」と述べています(※12)。彼らは、この“監視”や“認知”といった言葉を使って、この動きを体裁よく見せているのかも知れませんが、これは、本当の変化なのか？左派が軍や法執行機関に対して抱いている不信感の歴史を考えれば、これは彼らが暴力的で道徳的に破綻した戦闘力と見なしているものを抑制しようとしているとしか思えません。トランプ政権はアメリカの軍隊を活性化させました。新政権が、オバマ大統領の時のように軍隊を放置しないように祈りましょう。

イランは、国際的に制裁されている限界をはるかに超えて、ウラン濃縮プログラムを加速し続けています。協定では、ナタンツの地下施設に設置された IR-1 遠心分離機の連続工程は 1 段階しか認められていません。しかし、11 月には、改良型の IR-2m で構成された第 2 の連続濃縮に六フッ化ウラン (UF6) を投入し始めたのです。日曜日、国際原子力機関 (IAEA) は、イランが第 3 の連続工程に点火し、さらに増設する計画があることを発表しました(※13)。

「174 台の IR-2m 遠心分離機の第 4 の連続工程は設置されたが、まだ天然の UF6 が供給されて



## ウィークリー・ニュースレター

2021年3月5日～3月11日

おらず、IR-2m 遠心分離機の第5の連続工程の設置は進行中で、IR-2m 遠心分離機の第6の連続工程の設置はまだ始まっていない」とIAEAは報告しています(※14)。

イランが核兵器を保有した場合、イスラエルにとってどのような意味があるのかを心配している人々に対して、イスラエルの政策は「心配するな、そんなことは起こらない」と言っています。先週、ベニー・ガantz国防相はこのことを再確認し、「(イランが核爆弾を保有する)その前に世界が彼らを止めれば、それはとても良いことだ。しかし、そうでなければ、我々は独立して、自分たちの力で自分たちを守らなければならない」(※15)イスラエルには、自分たちに危害を加えることを目的とした兵器プログラムを阻止するために、積極的に行動してきた歴史があります。1960年代初頭、当時イスラエルの宿敵であったエジプトは、通常兵器や生物兵器の弾頭をイスラエルのあらゆる都市に投下できるミサイルプログラムを開発していました。エジプトには技術力がなかったため、ドイツ人科学者を雇いました。彼らの大半が、第二次世界大戦中に第三帝国に仕えていた人達です。やがて、科学者たちは行方不明になったり、小包爆弾や自動車爆弾で吹き飛ばされたりするようになり、残った科学者たちはチームを辞め、あっという間に、ミサイル計画は崩壊しました。当時、主要な爆弾製造者の1人であったナタン・ロトベルグは、インタビューで「敵を赦す方法を知っておく必要がある。しかし、ビンラディンのような人を赦す権限は我々にはありません。それは神のみができることです。私たちの仕事は、両者の間に話し合いの場を設けることです」(※16)。もしイランが核開発を続け、世界がそれを黙認するならば、おそらく、イスラエルが、イランの科学者と彼らの創造主との面会をお膳立てする事になるでしょう。

イスラエルの国防大臣の発言を聞いた後、イランの国防大臣もコメントを発表しました。アミール・ハタミ将軍は兵士たちに、「シオニスト政権は自暴自棄になって、イラン・イスラム共和国を脅かすために、我々に対して大きな主張をすることがある。もし手を出して来たら、我々はテルアビブやハイファを壊滅させるということを彼らは知らなければならない」と述べました(※17)。



## ウィークリー・ニュースレター

2021年3月5日～3月11日

今から4千年前、古代メソポタミアのウルという町にアブラムという人が生まれました。神は、彼に大いなる国の父となることを約束されました。しかし、彼の父親になる時期が大幅に遅れると思われたとき、彼は自らの手で、女奴隷のハガルとの間に息子をもうけました。この息子、イシュマエルがアラブ人の父祖となったのです。神がご自分の計画を実現される時が来たとき、神はアブラム（現在のアブラハム）に妻のサラを通して息子を与えてくださいました。この子はイサクと名付けられ、ヤコブの父となり、神はイスラエルと名付けられました。それから2,000年後、この2番目の血筋からキリスト・イエスが生まれました。さて、さらに2000年の時を経て、ウルの平原では、イラクのシーア派の最高宗教指導者である、大アーヤトラー・アリ・アル＝シスタ二師が、世界で福音派以外の多くがキリスト教のトップ聖職者と考えるであろう人物、フランシスコ教皇と会談しました。

それは期待通りのもので、準神学的な「We are the World」のようなものでした。84歳のローマ教皇が若造にも見えた数少ない会合のひとつで、90歳のイスラム教総主教はキリスト教総主教を自宅に迎え入れ、平和的な共存について語り、互いの信者の幸せを願いました。イラクの首相はこの会合を祝して、3月6日を「イラクにおける寛容と共存の日」と宣言しました（※18）。残念ながら、ISISやフーシ派の反政府勢力は、このメモを受け取っていないようです。このような世俗的な会合は、世界の宗教間の境界線を曖昧にし、反キリストの崇拝という統一世界宗教が存在する時代への道を準備するものです。

最後に、今回のイントロと密接に関連する話ですが、『Foreign Policy』誌は月曜日に「Israel is the Arab World's New Soft Power（イスラエルは、アラブ界の新ソフトパワーである）」と題した記事を掲載しました（※19）。「ソフトパワー」という言葉は1980年代に初めて作られたもので、「軍隊や威圧を使用せず、自身が望むことをするように他者を説得する国の能力」を意味します（※20）。イスラエルは、いかにして、かつての宿敵を味方にしたのか？この



## ウィークリー・ニュースレター

2021年3月5日～3月11日

記事では、いくつかの方法を紹介しています。まず、軍事的にイスラエルは強く、湾岸諸国の共通の敵であるイランに対しても恐れずに行動しています。この為、サウジアラビア、UAE、バーレーンが防衛同盟に合意するに至りました。次に、イスラエルは経済大国になりました。周辺諸国は、この資源の豊富な国との貿易パートナーになることにメリットを目にしています。第3に、イスラエルは技術的にも地域の「奇才」となっています。このことは、技術に貪欲なサウジアラビアのように、将来的に世界は化石燃料から離れていくと考えている国にとっては、特に魅力的です。このことについては、土曜日に公開する記事で詳しく説明します。

### ミニストーリーについて

先週末、ヤングアダルト弟子訓練 (YAD) チームは「みことば、世界、そしてあなた」の別の分野を開催しました。今回のセッションでは、アイザック・クオツツォ氏が登場し、彼の世代が間違った場所で希望を追い求めていることについての見解を述べました。また、他の人々との横の関係に満足するためには、キリストを通して神との縦の関係を調整しなければならないことも、グループで話し合いました。ぜひ、皆さんの周りの若者たちにも教えてあげてください。

また、毎週 Zoom で行われている「ヤングアダルト弟子訓練コール」への参加も呼びかけています。毎週火曜日の午前8時 (太平洋時間) から行われています。

オンライン・ミニストーリーを継続するにあたり、今週土曜日の午前10時 (PST) から開催される「預言座談会」をぜひご覧ください。ジャン・マーケルさんとバリー・スタグナー牧師をお迎えして、こんにちの世界で形作られつつある聖書のトピック「来るべき統一世界宗教」に





ウィークリー・ニュースレター  
2021年3月5日～3月11日

ついて話し合います。この宗教はどのようなものになるのでしょうか？それを示す兆候は何でしょうか？お楽しみに！

来週末、私の新しい聖書の学び「イスラエルと大患難」が初公開されることをお知らせしたいと思います。神に選ばれた国の上に立てられた神の過去、現在、そして未来の計画については、多くの混乱があります。しかし、人々が本当に頭を悩ませているのは、「ヤコブの苦難の時」と呼ばれる7年間です。この教えが、この問題を明確にする一助となることを祈っています。

3月20日(土)に開催される「Awaiting His Return - Virginia Beach」のチケットを配布中입니다。お席に限りがありますので、お早めにお申し込みください。私は1つのセッションをZoomでライブで話す予定ですが、マイク・ゴレイ牧師ともう1人 Behold Israel のスタッフが現場にいます。皆さんにお届けできるよう、とてもエキサイティングなメッセージを準備していますので、ぜひご参加ください。

私の新刊『イスラエルと教会』は、現在も当サイトでご予約を受け付けておりますので、どうぞご利用ください。現在、1冊以上ご予約いただいた方には、特典もご用意しております。この本を上梓することができて幸せでしたし、この本が皆さんの励みになることを願っています。

本といえば、私の最初の本である『The Last Hour』がインドネシア語に翻訳されるという素晴らしいニュースがありました。なんて素晴らしいことでしょう。福音を伝えるだけでなく、まもなくやってくる救い主への希望を伝えるこの本が、世界で最もイスラム教人口の多い国の言語に翻訳されることになりました。主がこの新しい翻訳を用いて、多くの人に救いをもたらしてくださいるように、主の栄光のために共に祈りましょう！



## ウィークリー・ニュースレター

2021年3月5日～3月11日

皆さんの祈りがどれほど大きな力を持っているか、いくら強調しても足りません。意思決定からイベントの企画、日常の運営まで、私たちは祈りの戦士たちに大きく依存しています。大きな落胆の時もあれば、勝利の時もあります。どちらの場合も、皆さんの祈りが必要なのです。さらに、私たちが多くのことを行うための手段を備えている、皆様の継続的で忠実な財政的支援を、心から感謝しています。

最後になりましたが、世界中の翻訳者のために引き続きお祈りください。彼らがいるからこそ、Behold Israelは「あらゆる国の人々に弟子を作る」という大宣教命令を実行することができるのです。彼らもまた、敵からの多くの攻撃に直面しています。

このミステリーな1年を過ごすにあたり、計画や決断をする際には、ぜひ主に委ねていただきたいと思います。神はあなたを混乱させません。神はあなたを惑わすことはありません。確信と知恵の源としては、「移り変わりや、移り行く影もない、光を造られた父」(ヤコブ 1:17 参照)に勝るものはありません。

箴言 3:5～6

心を尽くして主に拠り頼め。

自分の悟りにたよるな。

あなたの行く所どこにおいても、主を認めよ。

そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。

主の再臨を待ち望む

アミール・ツアルファティ



ウィークリー・ニュースレター  
2021年3月5日～3月11日

( 中略 )

〈ニュース〉

■IAEA、イランが JCPOA に違反して高性能の遠心分離機でウラン濃縮を行っていることを暴露

2021年3月9日

イスラム共和国は、2015年に締結されたイラン核合意に違反し、わずか数カ月前に高度な遠心分離機設置を採択した。過去の違反にも増して、この装置は現在、使用されている。

■フーシ派、サウジの石油権益を狙った多連装弾攻撃の責任を主張

2021年3月8日

複数のドローンとミサイルを含む攻撃で、死傷者なし。十数台の自爆ドローンと複数の弾道ミサイルが使用された。主要な石油関連施設が狙われた目標であった。

■バイデン政権、IHRA の反ユダヤ主義の定義を「受け入れる」と表明

2021年3月6日

新たに就任したトニー・ブリンケン国務長官は、米国シオニスト運動 ( AZM ) からの祝電に対し、新政権は国際ホロコースト記憶連合 ( IHRA ) が提示する反ユダヤ主義の定義を堅持するとの確約を同団体に返信した。

■イスラエル首脳部、イランの核武装阻止に向けた姿勢を再確認

2021年3月5日

ベニー・ガンツ国防相とネタニヤフ首相は、イランの核問題を外交的に解決することを求める一方で、侵略を強めるイスラム共和国に対してイスラエルが先制攻撃を仕掛ける姿勢を示した。

〈脚注〉



## ウィークリー・ニュースレター

2021年3月5日～3月11日

1. Williams, Dan 「ネタニヤフ首相、UAE 訪問を延期した理由を『ヨルダンの上空飛行が遅れたため』と発表。」 *U.S. News & World Report*, U.S. News & World Report, 11 Mar. 2021, [www.usnews.com/news/world/articles/2021-03-11/netanyahu-cancels-planned-uae-visit-israels-kan-broadcaster](https://www.usnews.com/news/world/articles/2021-03-11/netanyahu-cancels-planned-uae-visit-israels-kan-broadcaster).
2. 「デモ隊が道路を封鎖し、レバノン・ポンドが最安値を更新」 *Reuters*, Thomson Reuters, 2 Mar. 2021, [www.reuters.com/article/us-lebanon-crisis-pound/protestors-shut-down-roads-as-lebanese-pound-plummets-to-new-low-idUSKBN2AU0Z9](https://www.reuters.com/article/us-lebanon-crisis-pound/protestors-shut-down-roads-as-lebanese-pound-plummets-to-new-low-idUSKBN2AU0Z9).
3. 同上。
4. Mroue, Bassem. ABCNews, ABCNewsNetwork, 8 Mar. 2021, [abcnews.go.com/International/wireStory/lebanons-army-chief-warns-economic-crisis-hurting-troops-76325255](https://abcnews.go.com/International/wireStory/lebanons-army-chief-warns-economic-crisis-hurting-troops-76325255).
5. 同上。
6. 「CJTF-OIR について」 *Operation Inherent Resolve*, [www.inherentresolve.mil/About-CJTF-OIR/](https://www.inherentresolve.mil/About-CJTF-OIR/).
7. 「米軍が駐留するイラクのアイン・アル＝アサド空軍基地にロケット弾が命中: DW: 03.03.2021.」 *DW.COM*, 3 Mar. 2021, [www.dw.com/en/rockets-hit-iraqs-ain-al-asad-air-base-hosting-us-troops/a-56753459](https://www.dw.com/en/rockets-hit-iraqs-ain-al-asad-air-base-hosting-us-troops/a-56753459).
8. Wassef, Khaled 「イランが支援するイエメンのフーシ派によるドローンとミサイルの攻撃で、サウジアラビアの石油施設が狙われた」 *CBSNews*, CBS Interactive, 8 Mar. 2021, [www.cbsnews.com/news/saudi-arabia-drone-attack-oil-infrastructure-ras-tanura-dhahran-houthi-yemen-iran/](https://www.cbsnews.com/news/saudi-arabia-drone-attack-oil-infrastructure-ras-tanura-dhahran-houthi-yemen-iran/).
9. Magdy, Samy. 「サウジ連合軍がフーシ派のドローン攻撃を受けてイエメンの首都を爆撃」 *CP24*, CP24, 7 Mar. 2021, [www.cp24.com/world/saudi-coalition-bombs-yemen-s-capital-after-houthi-drone-strikes-1.5337288](https://www.cp24.com/world/saudi-coalition-bombs-yemen-s-capital-after-houthi-drone-strikes-1.5337288).
10. Khaled Wassef.
11. 「米国は、フーシ派が石油産業の中心地を攻撃した後、サウジアラビアへの攻撃が頻発していることに危機感を持つ」 *Reuters*, Thomson Reuters, 8 Mar. 2021, [www.reuters.com/article/us-yemen-security-saudi/u-s-commits-to-saudi-defence-after-houthi-attacks-on-oil-heartland-idUSKBN2B01CM](https://www.reuters.com/article/us-yemen-security-saudi/u-s-commits-to-saudi-defence-after-houthi-attacks-on-oil-heartland-idUSKBN2B01CM).
12. Shinkman, Paul D 「米国防総省、バイデン政権の無人機攻撃の新規制を確認、軍高官の襲撃も」 *U.S. News & World Report*, U.S. News & World Report, 8 Mar. 2021, [www.usnews.com/news/national-news/articles/2021-03-08/pentagon-confirms-bidens-new-restrictions-on-drone-strikes-commando-raids](https://www.usnews.com/news/national-news/articles/2021-03-08/pentagon-confirms-bidens-new-restrictions-on-drone-strikes-commando-raids).
13. 「イランは、高性能の IR-2M 遠心分離機の 3 段連鎖でウランを濃縮している - IAEA」 *Arab News*, Arabnews, 9 Mar. 2021, [www.arabnews.com/node/1822061/middle-east](https://www.arabnews.com/node/1822061/middle-east).
14. 同上。
15. Yingst, Trey, and Yonat Friling 「イスラエルはイランの核施設を攻撃する計画を更新していると、イスラエル国防相が Fox News に語った」 *FoxNews*, FOXNewsNetwork, 4 Mar. 2021, [www.foxnews.com/world/israel-strike-plan-iranian-nuclear-sites-defense-minister-interview](https://www.foxnews.com/world/israel-strike-plan-iranian-nuclear-sites-defense-minister-interview).
16. 「神との出会いの場を提供する事務局」 *Rise and Kill First*, by Ronen Bergman, Hodder & Stoughton, 2019, p. 41.
17. 「『イスラエルが攻撃すれば、テルアビブとハイファを攻撃する』とイラン国防相が警告」 *The Times of Israel*, 7 Mar. 2021, [www.timesofisrael.com/if-israel-attacks-well-raze-tel-aviv-and-haifa-warns-iranian-defense-minister/](https://www.timesofisrael.com/if-israel-attacks-well-raze-tel-aviv-and-haifa-warns-iranian-defense-minister/).
18. Winfield, Nicole, and Kassim Abdul-Zahra 「ローマ教皇とイラクのシーア派聖職者が共存へのメッセージを発信」 *APNEWS*, Associated Press, 5 Mar. 2021, [apnews.com/article/middle-east-islamic-state-group-ali-al-sistani-pope-francis-iraq-f95098b179f6a82157e87a7cb6cc0c3d](https://apnews.com/article/middle-east-islamic-state-group-ali-al-sistani-pope-francis-iraq-f95098b179f6a82157e87a7cb6cc0c3d).
19. Vohra, Anchal 「イスラエルはアラブ世界の新しいソフトパワーである」 *Foreign Policy*, 8 Mar. 2021, [foreignpolicy.com/2021/03/08/israel-is-the-arab-worlds-new-great-power/](https://foreignpolicy.com/2021/03/08/israel-is-the-arab-worlds-new-great-power/).
20. Li, Eric. 「ソフトパワーの栄枯盛衰」 *Foreign Policy*, 20 Aug. 2018, [foreignpolicy.com/2018/08/20/the-rise-and-fall-of-soft-power/](https://foreignpolicy.com/2018/08/20/the-rise-and-fall-of-soft-power/).